

# こんにゃくとは！



## 特 性

こんにゃく(サトイモ科)は、多年生の植物で生育期間を通常1枚の葉で経過します。

発芽後の種芋は徐々に消費してなくなり、代わりに新しい球茎(芋)が形成されるとともに、新球茎に生子(1年生)が着生します。

生子から栽培して4~5年目の春には花が咲きます。花が咲くとその芋からはこんにゃくが作れなくなります。

## 栽培のポイント

- 水はけの良い傾斜畑で栽培します。



こんにゃくの花

- ① 西日の当たらない風通しの良いところが良いようです。
- ② 7月~8月の気温が30℃を超える地域では、山や樹木等によって日照時間が短縮されるような、ほ場を選定します。
- 地温の変化を少なくするため、刈草や落葉等を厚めに敷くと良いそうです。

## 植付けのポイント

- こんにゃく芋は4月中旬ごろまでに植付けます。
- 芋を植える深さは芽の基部から6cm程度とし、種芋を畦方向に45度傾けて植えます。  
(高年生の種芋は、芽の付け根付近が少し、くぼんでいます。  
かん水や降雨後に、このくぼみに水が溜まると芋が腐りやすくなるので、これを防止するため、やや傾けて植えますが、傾けて植えても芽は上に伸びていきます。)

# ◎畑作りと種芋の植付け

- こんにゃくは、水はけの良い土地を好みます。  
畝を高くし、こんにゃく肥料を1㎡当たり100g程度撒きます。



- こんにゃく芋を植える間隔は、30cmくらい離して植えます。



植付け後、しばらくは、水やりは不要です。  
秋に茎が枯れるまでに畑が乾いたら水をやります。

## 発 芽

- 植付けからおおむね3~4週間すれば、こんにゃくの芽が出ます。

